

TOTO

スタッフ用手洗器

MR850A型
MR850B型

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

1-1 安全上の注意 (安全のために必ずお守りください)


取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。


●この説明書では商品を安全に正しく取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。






●お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。


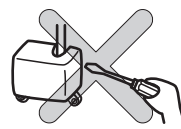


警告 この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。


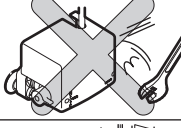


注意 この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害または物的損害が発生する可能性があることを示しています。

 は、してはいけない「禁止」内容です。左図は、「分解禁止」を示します。

 は、必ず実行していただく「強制」内容です。左図は、「必ず実行」を示します。

警告	
	<p>サーモスタット混合栓 湯水を逆に配管しない</p> <p>水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。</p> 
	<p>サーモスタット混合栓 給湯温度は85℃より高温で使用しない</p> <p>85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損してやけどをしたり、水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。なお、十分な機能を発揮させるため、給湯機の給湯温度は60℃設定をおすすめします。やけど防止のため、60℃を超えない設定をしてください。</p> 
	<p>浴室など湿気の多い場所には設置しない</p> <p>故障や感電の原因になります。</p> 

警告	
	<p>分解したり、修理・改造は絶対に行わない</p> <p>火災や感電の原因になります。</p> 
	<p>サーモスタット混合栓</p> <p>フィルターの掃除をする際は、いきなりふたをゆるめず、必ず止水栓を閉めてから行う また、湯側フィルター部が熱くないことを確認する</p> <p>必ず実行</p> <p>高温の湯が出てやけどをしたり、水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。</p> 

注意	
	<p>強い力や衝撃を与えない</p> <p>破損して、水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。</p> 
	<p>屋外や凍結が予想される場所に設置しない</p> <p>部品が破損し、水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。</p> 
	<p>手洗器の上に乗らない</p> <p>手洗器が破損し、けがをするおそれがあります。</p> 

1-2

⚠ 注 意



必ず実行

手洗器の取り付けは、取付方法に従って、確実に行う
取り付けに不備があると、手洗器が落下し、けがをす
るおそれがあります。



開梱後、不要になった梱包材はすみやかに処分する
段ボールや締め付けバンドなどでけがをするおそれ
があります。また、ビニール袋などは子供などが、かぶ
って遊び、思わぬ事故につながるおそれがあります。



梱包材

フィルターの掃除をする際は、いきなりふたをゆる
めずに、必ず止水栓を閉めてから行う

水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそ
れがあります。



止水栓

閉める

2

取り付け前に

1. 給水圧力の確認

- 給水圧力は給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。
- 給水圧力範囲は、0.07~0.75MPaです。
この圧力範囲内でご使用ください。
- 給水圧力が0.75MPaを超える場合、市販の減圧弁で0.2~0.3MPaに減圧してください。
快適に水栓をお使いいただくためには、0.2~0.3MPa程度の圧力をおすすめします。

2. 給湯温度の確認

- 誤動作などによるやけど防止のため、**60℃給湯**をおすすめします。
ただし、約50℃以上の湯は出さないようにしています。

3. 配管・配線について

- 給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするために最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

4. その他

- センサー面を傷つけないよう十分にご注意ください。
- インバーターや赤外線を用いた他の機器により誤動作することがあります。
- アクアオートは屋内用ですので、屋外では使用しないでください。
- ステンレス製およびメッキを施した手洗器や洗面器にはご使用できません。(誤作動するおそれがあります。)
- 梱包前に通水検査をしていますので商品内に水が残っている可能性がありますが、商品には問題ありません。

3 取り扱い、施工上の注意

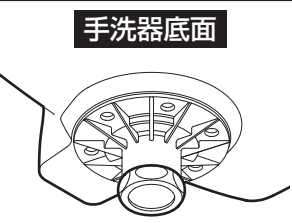
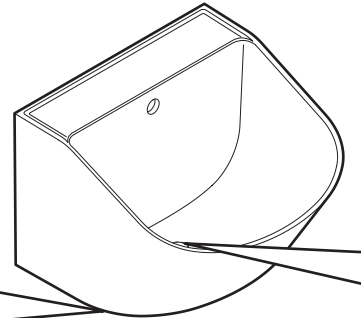

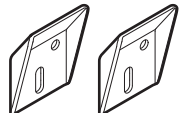

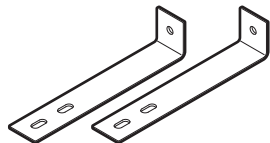




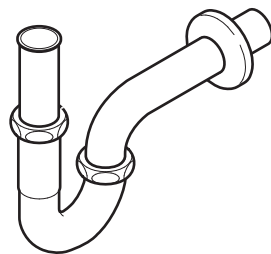
- 硬いものを落としたり、ぶつけたりしないでください。
手洗器にクラックが入ったり、欠けたりすることがあります。
- 熱にご注意ください。
直射日光、火のついたタバコなどは手洗器のそりや変色の原因になります。
- 洗剤にご注意ください。
タイル洗いなどの洗剤が手洗器にかからないようにしてください。
万一、かかった場合はすぐに水洗いしてください。
- 手洗器を破棄処分する場合は、許可を受けている処理業者に処理を依頼してください。
- 養生フィルムは内装仕上げなどすべての工程が完了するまで取り除かないでください。

4 アクアオート仕様

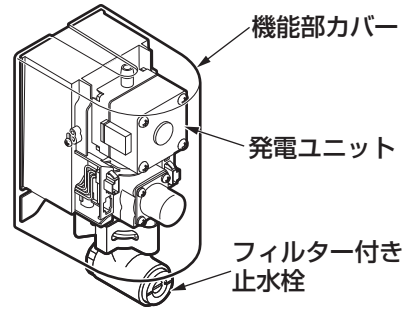
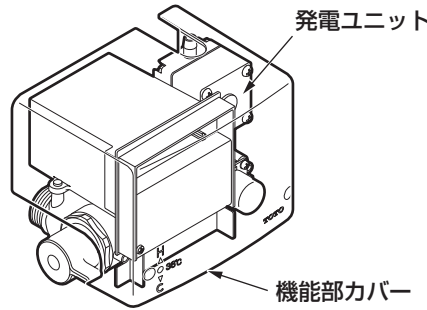
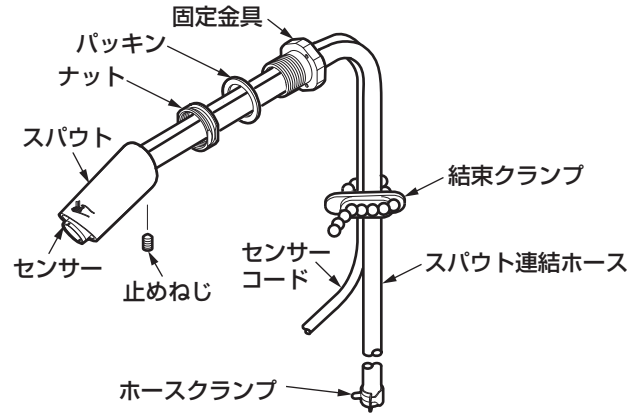
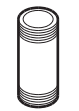






タイプ		単水栓	サーモスタット混合栓
セット品番		MR850A型	MR850B型
消費電力	待機時	0.4W (最大値3W)	
	動作時	0.6W (最大値5W)	
給水圧力	最低必要水圧	0.07MPa(流動時)	
	最高水圧	0.75MPa(静止時)	
使用可能水質		水道水および飲用可能な井戸水	
使用環境温度		1~40℃	
感知距離		学習方式による感知距離変化型 (セットアップされる陶器により、 自動で感知距離を設定します)	
センサーコード長さ		0.79m	
吐水流量		4L/分 定流量弁内蔵	
給水接続		R1/2	PJ1/2
用途		スタッフ用手洗器専用	

5 部品の確認

次の部品があることを確認してください。

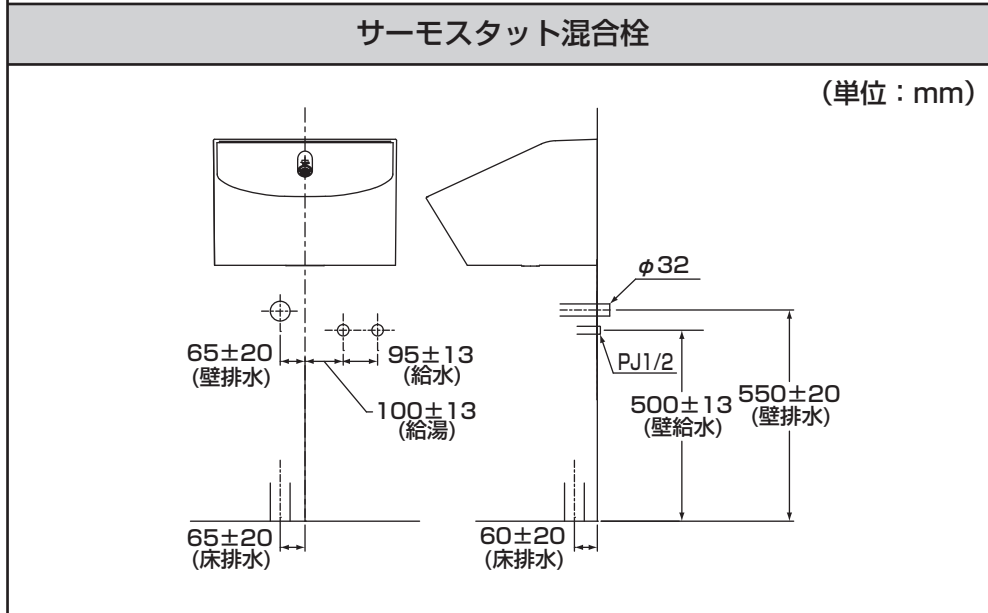
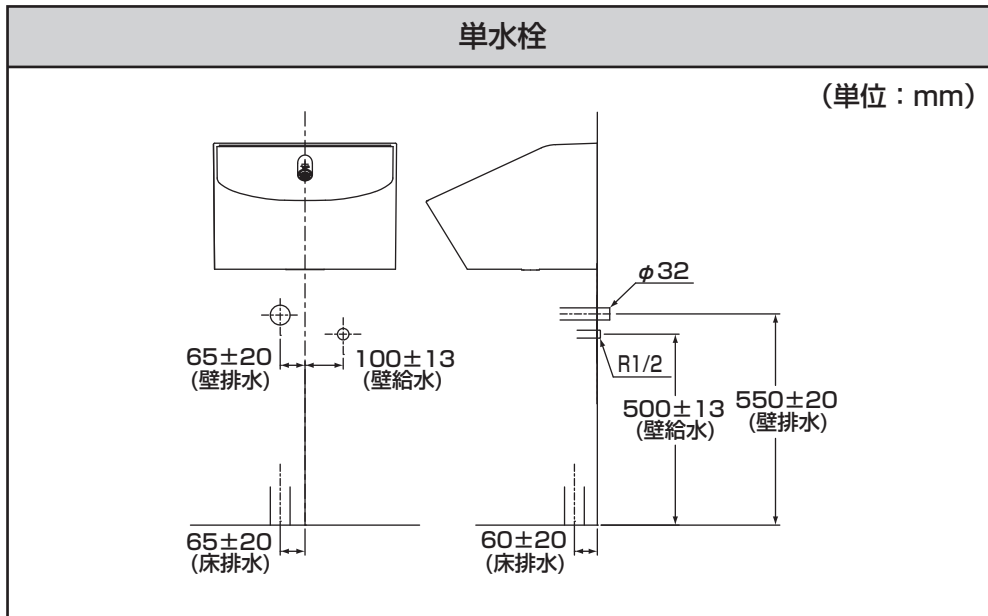
手洗器	 <p>手洗器底面</p> <p>※樹脂部保護のため、排水金具の取り付けに使用する「パッキン」・「ナット」が仮固定されています。</p>		 <p>※排水口部に目皿がセットされています。</p>
	<p>バックハンガー (2個)</p>  <p>座金付き小ねじ (4本)</p>  <p>Lアングル (2本)</p>  <p>木ねじ めっき (φ5.8×63 6本)</p>  <p>座金 (2枚)</p>  <p>木ねじ SUS (φ5.8×63 2本)</p>  <p>コンクリットプラグ (6本)</p>  <p>コンクリットプラグ (2本)</p> 		
排水金具			

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

機能部	<p>単水栓</p>  <p>機能部カバー 発電ユニット フィルター付き止水栓</p>	<p>サーモスタット混合栓</p>  <p>発電ユニット 機能部カバー</p>	
	<p>スパウト部</p>  <p>固定金具 パッキン ナット スパウト センサー 止めねじ 結束クランプ センサーコード スパウト連結ホース ホースクランプ</p>		
給水・給湯脚部	<p>単水栓</p>  <p>連結管</p>	<p>サーモスタット混合栓</p>  <p>フィルター付き止水栓 (パッキン付き)</p>	<p>その他</p> <p>必ずお客様にお渡しください</p>  <p>開閉工具 取扱説明書 自動水栓アクアオート 取扱説明書</p>  <p>ねじ (2本) ※ねじは単水栓のみ</p>  <p>施工説明書</p>
	<p>フランジ</p> 	<p>フランジ</p> 	

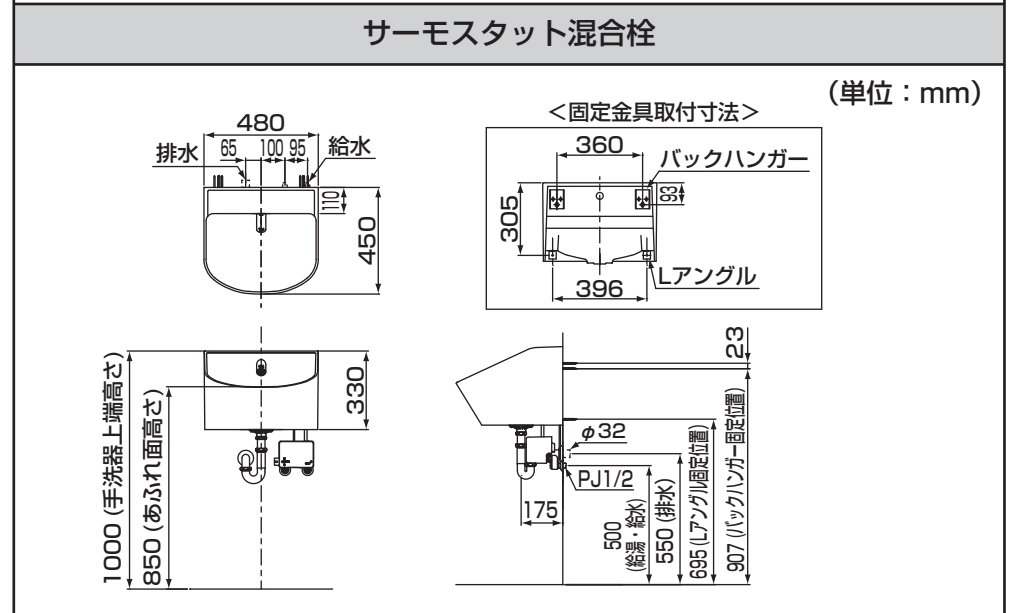
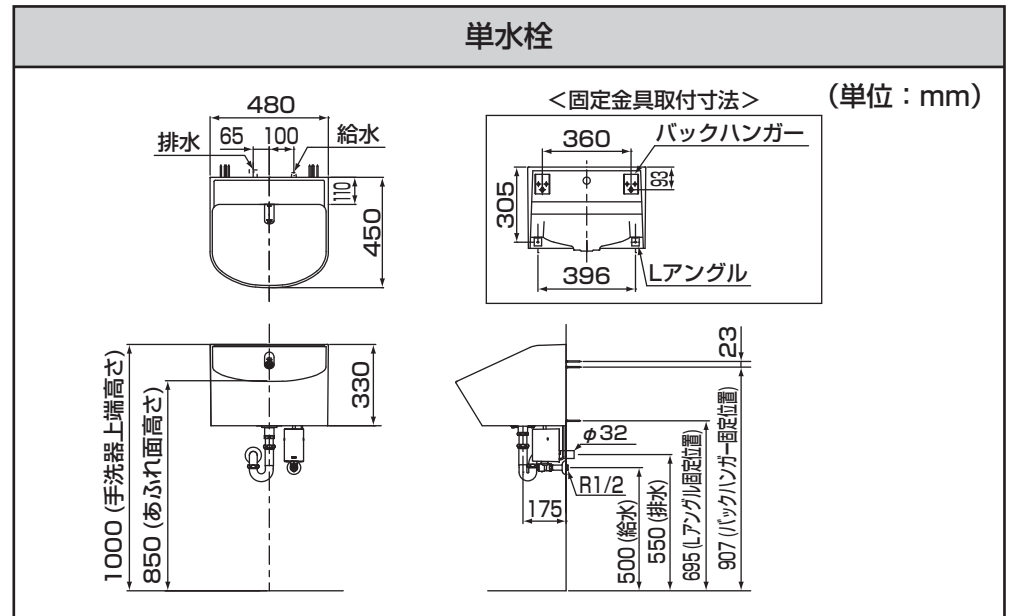
6 給排水位置

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

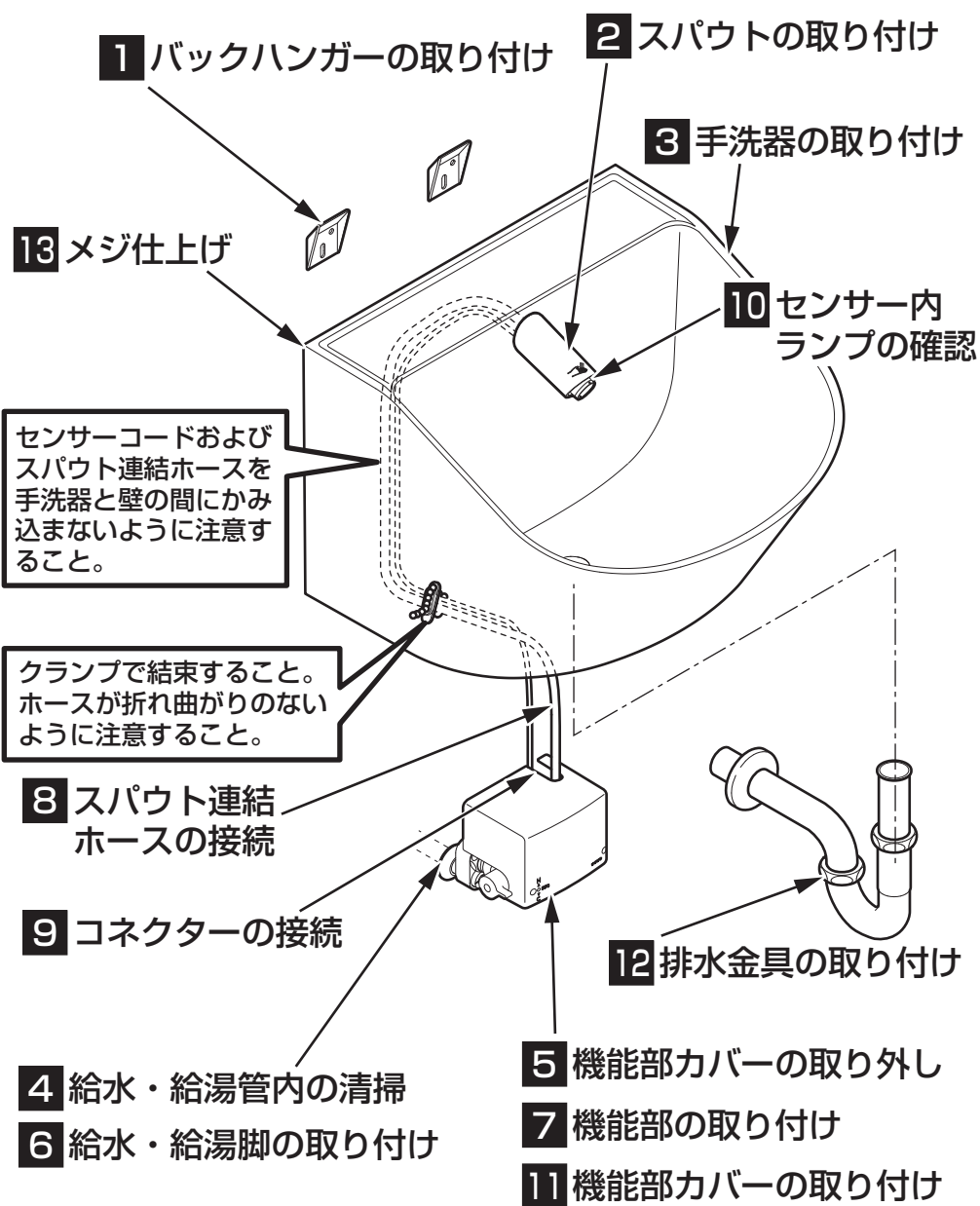


7 完成図 (例)

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

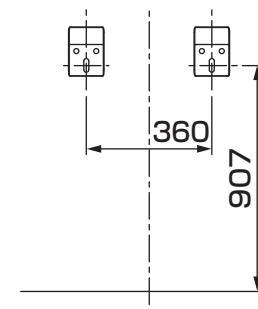


8-1 施工手順

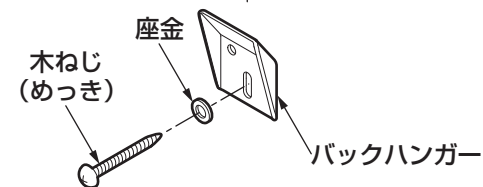


1 バックハンガーの取り付け

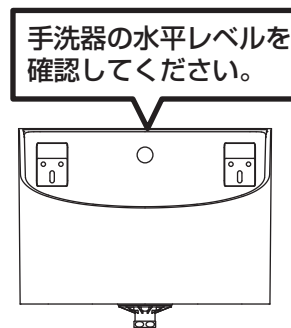
①位置決め
バックハンガーは右図の位置で壁と固定する。
固定する位置にあらかじめ壁の構造に応じた補強を行うこと。



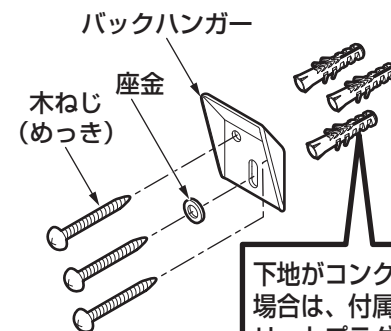
②仮固定
バックハンガーを長穴の1箇所では仮固定する。
また長穴の箇所には座金を入れること。



③位置調整
手洗器をバックハンガーに仮置きして、手洗器の水平レベルを確認する。



④固定
※バックハンガーは必ず3点で固定してください。
また、長穴の箇所には座金を入れてください。



⑤下地がコンクリートの場合
壁の下地がコンクリートの場合、壁にφ8×深さ50mm以上の穴を開け、コンクリットプラグを打ち込んだあと、木ねじで固定する。
※壁の構造に応じた適切な方法で固定してください。

2 スパウトの取り付け

①固定金具にパッキンを取り付け、手洗器の取付穴に裏側から差し込む。

②手洗器の表面からナットを取り付け、固定金具を仮固定する。

注意

固定金具およびナットを取付穴の中央に取り付けてください。

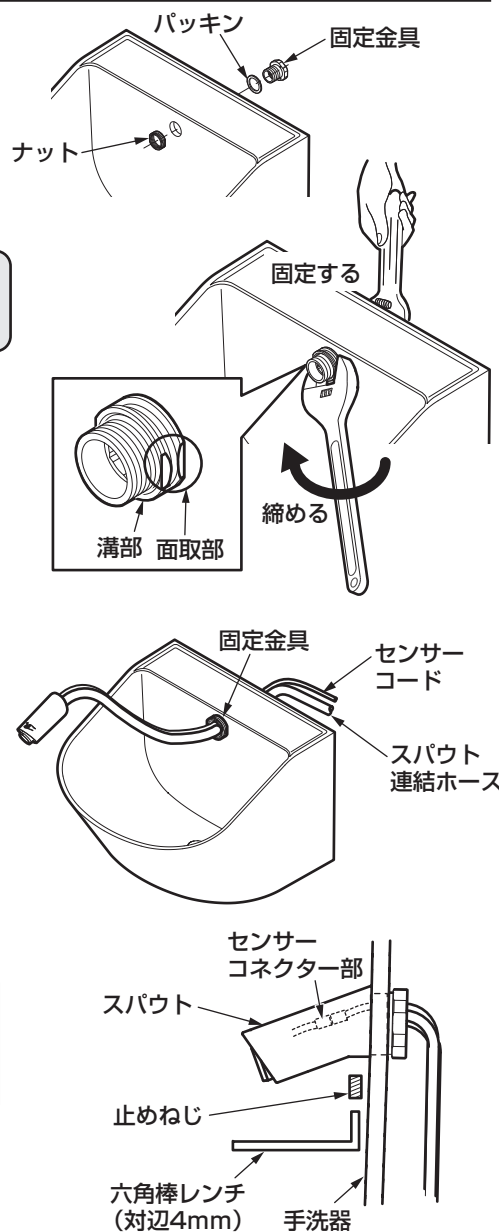
③固定金具をスパナで固定し、表面のナットをスパナで回してしっかり固定する。
このとき、止めねじをナットの溝部に止めるため、ナットの面取部が縦になるまで増し締めする。

④固定金具にスパウト連結ホースとセンサーコードを通す。

⑤センサーコネクター部をスパウトの内側上部に奥まで収納する。

⑥スパウトを手洗器面に密着させ、六角棒レンチ（対辺4mm）を使用して止めねじで固定する。

スパウトが手洗器に密着しない場合は、センサーコネクターをスパウトの上側の奥まで入れてください。



3 手洗器の取り付け

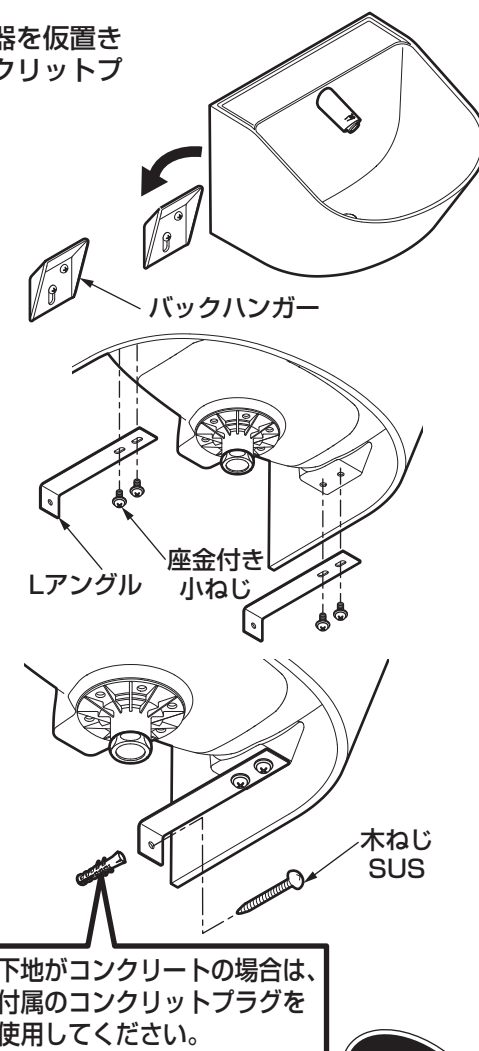
壁の下地がコンクリートの場合、手洗器を仮置きして、下アングルの位置出し後、コンクリットプラグを打ち込んでください。

①手洗器の設置
手洗器をバックハンガーにかけて設置する。

②Lアングルの取り付け
付属のLアングルを手洗器に座金付き小ねじで取り付ける。

③固定
Lアングルを付属の木ねじで固定する。

④下地がコンクリートの場合
壁の下地がコンクリートの場合、壁にφ8×深さ50mm以上の穴を開け、コンクリットプラグを打ち込んだあと、木ねじで固定する。
※壁の構造に応じた適切な方法で固定してください。



4 給水・給湯管内の清掃

取り付ける前に **必ず給水・給湯管内のごみ、砂などを完全に洗い流す。**

重要

単水栓の場合

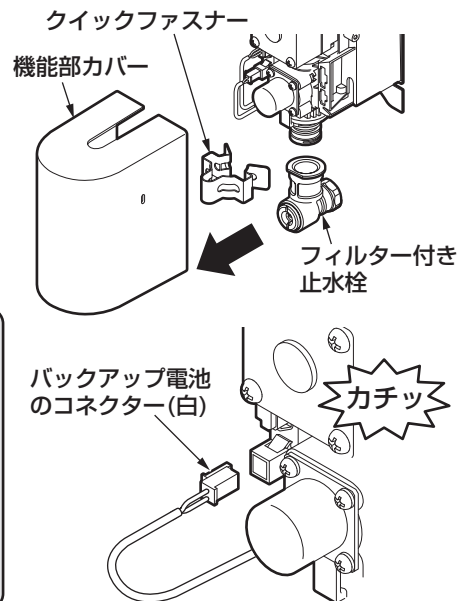
5 機能部カバーの取り外し

- ①機能部カバーを手前側に外す。
- ②クイックファスナーを外し、フィルター付き止水栓を取り外す。
- ③バックアップ電池のコネクター(白)を「カチッ」というまで差し込む。

注意

●バックアップ電池のコネクターは機能部底部にあります。

●コネクターを接続後、機能部が作動可能になるまでに約2分間かかります。

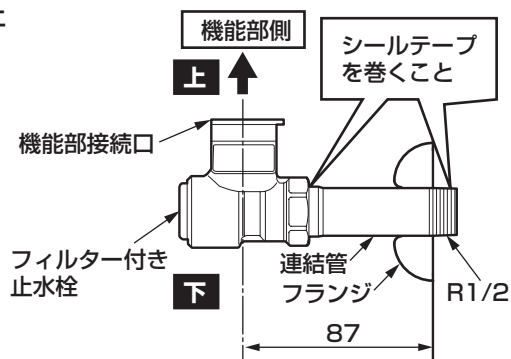
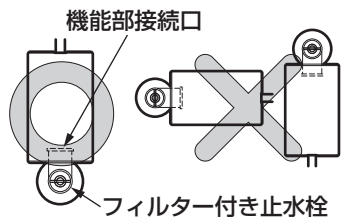


6 給水脚の取り付け

フランジ、連結管、フィルター付き止水栓を取り付ける。

注意

必ず機能部接続口が上になるように固定してください。水が浸入し、不具合の原因になります。



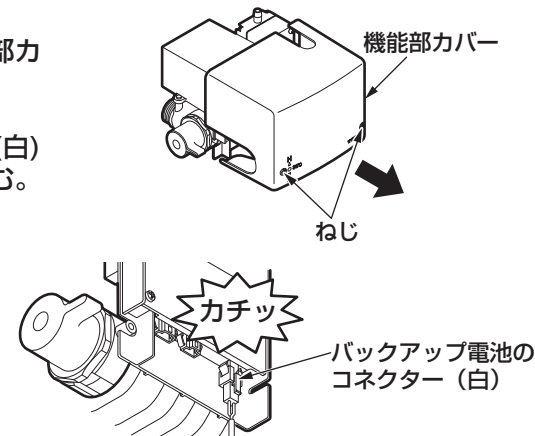
サーモスタット混合栓の場合

5 機能部カバーの取り外し

- ①ねじ(2カ所)をゆるめ、機能部カバーを手前に引く。
- ②バックアップ電池のコネクター(白)を「カチッ」というまで差し込む。

注意

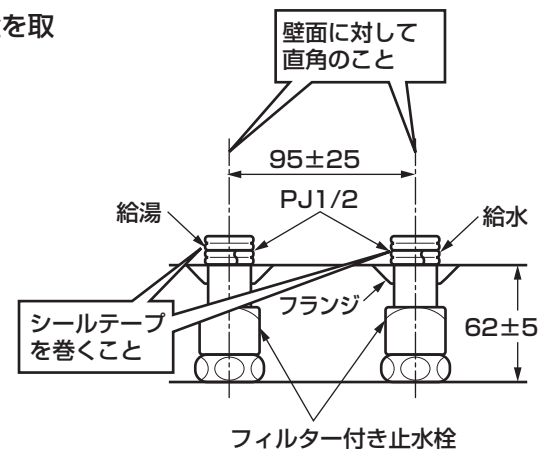
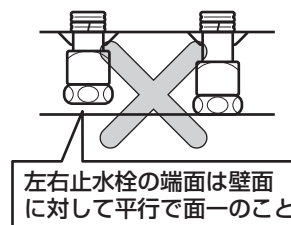
コネクターを接続後、機能部が作動可能になるまでに約2分間かかります。



6 給水・給湯脚の取り付け

フランジ、フィルター付き止水栓を取り付ける。

(給水・給湯側)



裏面へつづく

単水栓の場合

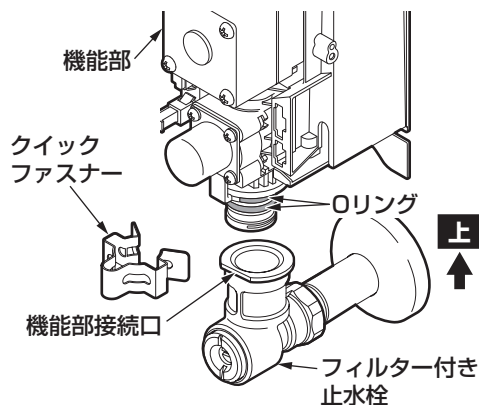
7 機能部の取り付け

①フィルター付き止水栓の機能部接続口が上になっていることを確認し、機能部をフィルター付き止水栓に取り付ける。

②クイックファスナーで固定する。

注意

リングにごみなどが付着していないことを確認して、取り付けてください。



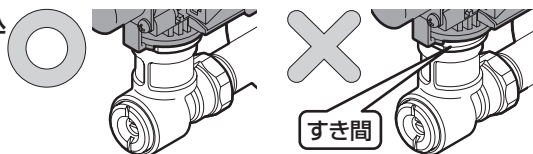
注意

クイックファスナーの取り付けは、確実に行う

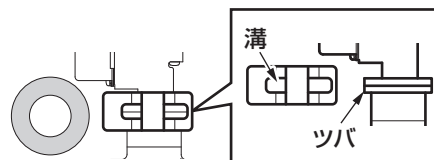
必ず実行

不完全な場合、外れて水漏れの原因になります。

●すき間がないよう、確実に押し込む。



●クイックファスナーの溝にツバが全周にかかっていること。



●クイックファスナー取り付け後は、正しく取り付いていることを目視や鏡で確認する。



サーモスタット混合栓の場合

7 機能部の取り付け

①フィルター付き止水栓の袋ナットにパッキンを取り付ける。

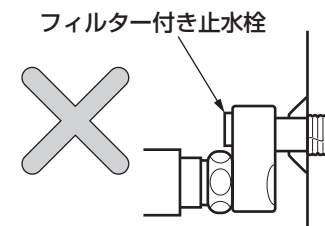
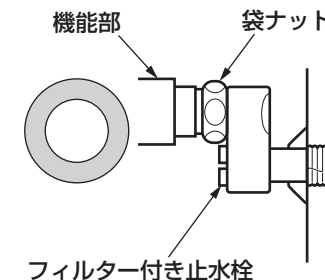
②機能部を取り付ける。

注意

●パッキンを必ず取り付けてください。

●フィルター付き止水栓は機能部の接続部が上になるように取り付けてください。

下になるとフィルターの掃除、および止水栓の調節ができません。

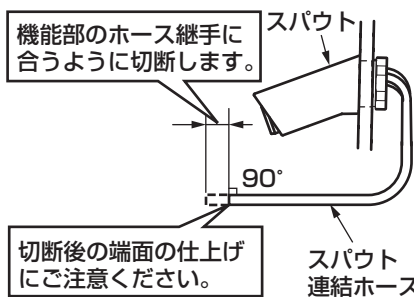


8 スパウト連結ホースの接続

- ①スパウト連結ホースを機能部のホース継手に合うように適切な長さに切断する。

注意

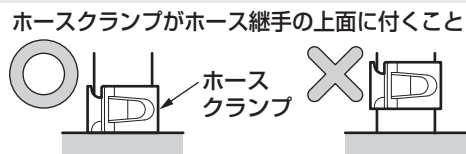
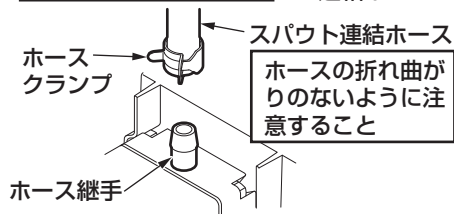
- ハサミなどを用い、切断面が垂直になるよう行ってください。
- スパウト連結ホースが長すぎると、折れ曲がりによる吐水不良のおそれがあります。



- ②スパウト連結ホースをホース継手に差し込む。
③ホースクランプでホースを固定する。

注意

- スパウト連結ホースが確実に差し込まれているか確認してください。
- スパウト連結ホースが折れ曲がることのないように注意してください。
- ホースクランプは所定の位置にできるようにしてください。
- 必ずホースクランプでスパウト連結ホースを固定してください。

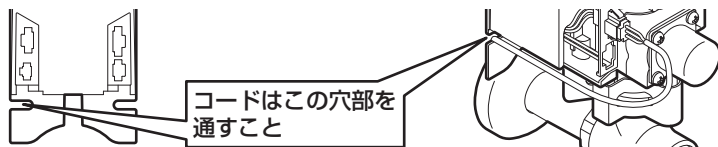
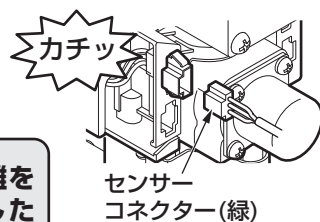


9 コネクタの接続

センサーコネクタ(緑)を「カチッ」というまで差し込む。

注意

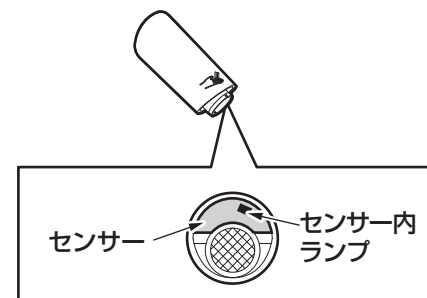
センサーコネクタが入るとただちに感知距離を自動設定しますので、センサーに手をかざしたり、手洗器内に物を置いたりしないでください。(約20秒間でこの動作は完了します)



10 センサー内ランプの確認

センサーに手をかざしたり、手洗器内に物を置いたりしない状態で、スパウトのセンサー内ランプが点滅していないことを確認する。

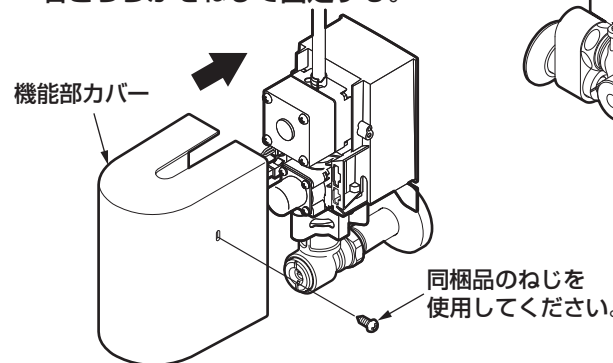
※電源を入れて約10分後にランプの点滅は自動的に消えます。



11 機能部カバーの取り付け

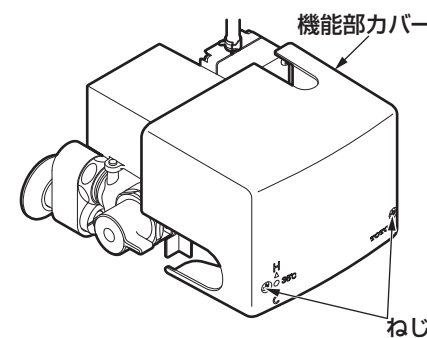
単水栓の場合

- ①コネクタが確実に接続されているか確認する。
- ②クイックファスナーが確実に差し込まれて固定されているか確認する。
- ③機能部カバーをはめ、両方または左右どちらかをねじで固定する。



サーモスタット混合栓の場合

コネクタが確実に接続されているか確認したあと、機能部カバーを取り付ける。

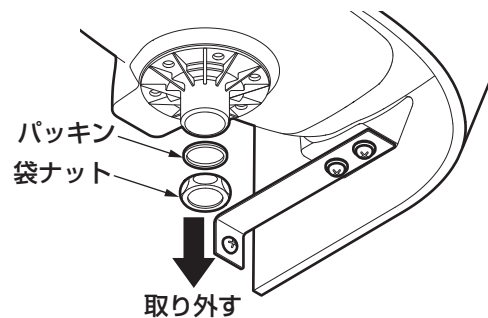


注意

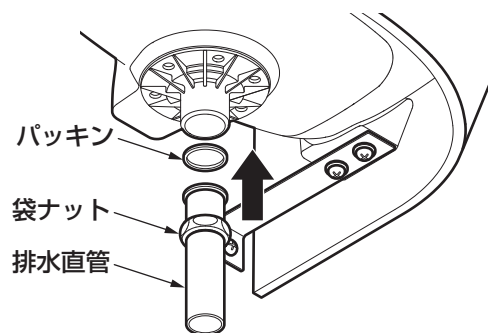
- 機能部カバーは確実に取り付けてください。
- 機能部の取り付け向きを確認してください。
- 機能部カバーを取り付ける際は、コードのかみこみに注意してください。

12 排水金具の取り付け

- ① パッキンの取り出し
袋ナットを外して、パッキンを取り出す。

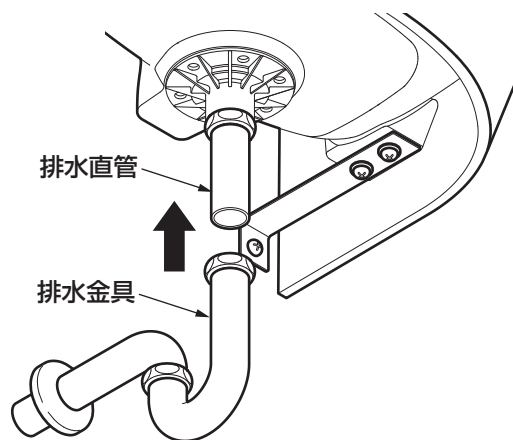


- ② 排水直管の固定
排水直管を手洗器に袋ナットで固定する。
その際、取り出したパッキンを必ず袋ナットと排水直管の間に入れる。

**注意**

取り外したパッキンを必ず入れてください。

- ③ 排水金具の取り付け
排水金具を取り付ける。

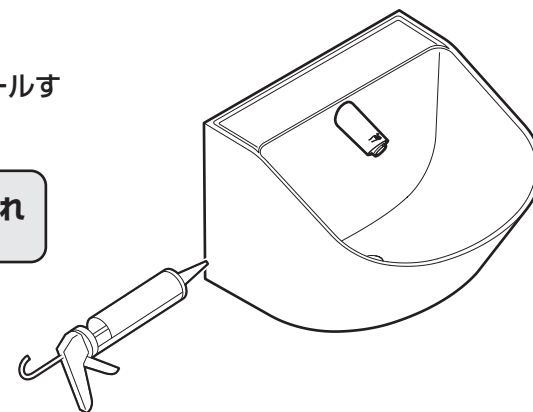


13 メジ仕上げ

- メジ仕上げ
手洗器が壁に接する面をメジシールする。

注意

手洗器に残ったメジシールはきれいにふき取ってください。



1. 試運転

取り付けが完了したあと、次の方法で試運転を行ってください。

① 水漏れの確認

止水栓を開き、給水・給湯脚やスパウト連結ホースの接続部から水漏れがないか確認してください。

② 水を出す・止める

- 吐水口に手を近づけると水が出ます。
- 手を離すと約1~2秒後に水が止まります。
- 手を約1分間連続して感知すると自動的に水は止まります。
(センサー感知は学習方式のため、手を動かさないでいると約15秒で水が止まります)
- センサー前面から約4cmの位置に開閉工具など反射しやすい物を感知させると、最大1分間水を出すことができます。
※手洗器内に水をためると、水の影響により感知する場合があります。

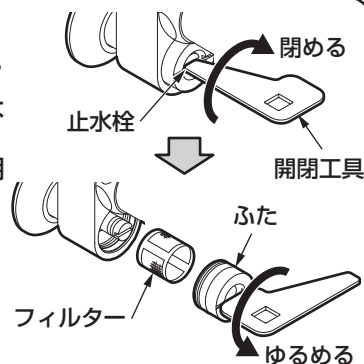
※正常に動作しない場合は、**各コネクターが確実に接続されている**か確認してください。

2. フィルターの掃除

取り付け後は必ずフィルターを掃除してください。

フィルターが詰まると流量が少なくなったり、十分な機能が発揮されなくなります。また、お客様にも時々掃除していただくようにご説明願います。

※フィルターを掃除する際は、付属の開閉工具で**止水栓を閉めたあと、フィルターふたを外してください。**



3. 吐水温度の調節 (サーモスタット混合栓の場合)

工場で適温 (約36℃) に温度調節をしています。取付現場の圧力状況などによって、所定の温度にならない場合があります。この場合は、温度調節ハンドルを手で回して温度を調節してください。



4. 流量の確認



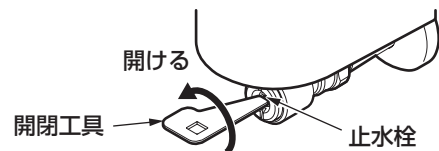
1. センサー前に手をかざし、水を出す。
2. 500mlのペットボトルに水をため、11秒以内に満水になることを確認する。
3. 11秒以上かかる場合は**5. 流量の調節**を参照し、定流量弁を取り外して、使用する。

単水栓の場合

5. 流量の調節

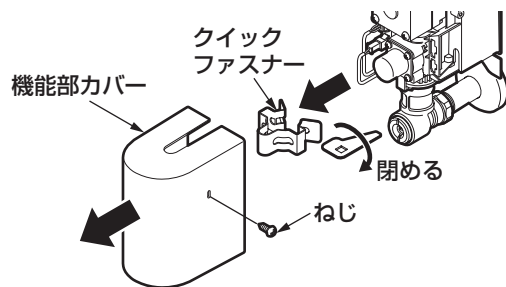
機能部内部に、定流量弁を内蔵していますので、基本的には流量の調節は不要です。

止水栓は全開 でご利用ください。



ただし、圧力が低い場合や電気温水器とのセットにより、流量が不足する場合がありますので、下記要領にて定流量弁を取り外し流量を調節してください。

1. 開閉工具で止水栓を閉める。
2. ねじを外し、機能部カバーを外す。
3. クイックファスナーを外す。



4. フィルター付き止水栓から機能部を取り外す。
5. 機能部に組み込まれている機能部フィルターを外し、定流量弁を取り出す。

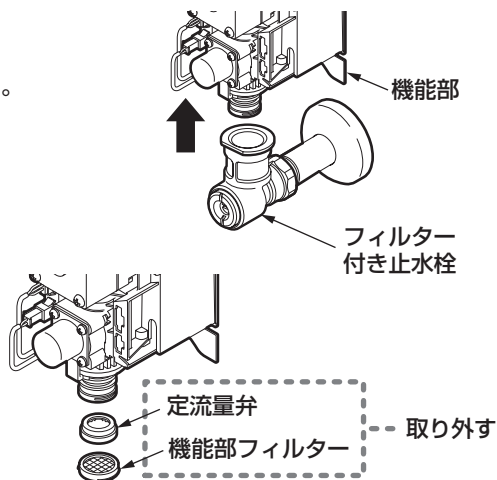
6. 機能部をフィルター付き止水栓に取り付け、クイックファスナーで固定する。

クイックファスナーの取り付けは、確実に行ってください。

7. 機能部カバーを取り付ける。

8. 止水栓を開け、流量調節をする。

500mlのペットボトルが10秒以内で満水になるように調節してください。

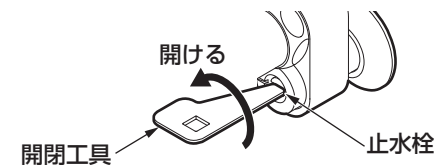


サーモスタット混合栓の場合

5. 流量の調節

機能部内部に、定流量弁を内蔵していますので、基本的には流量の調節は不要です。

止水栓は全開 でご利用ください。



ただし、圧力が低い場合や電気温水器とのセットにより、流量が不足する場合がありますので、下記要領にて定流量弁を取り外し流量を調節してください。

1. 開閉工具で湯側・水側の止水栓を閉める。

重要

2. ねじ (2カ所) を外し、機能部カバーを手前に引く。

3. 止め輪を外す。

4. 発電ユニットを取り外す。

5. ホルダーを外し、定流量弁を取り出す。

6. 発電ユニットを元の位置に戻し、止め輪を取り付け、機能部カバーを取り付けてください。

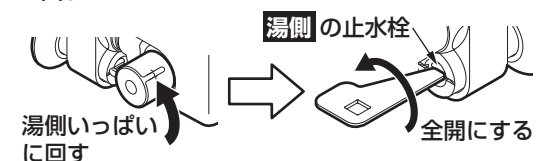
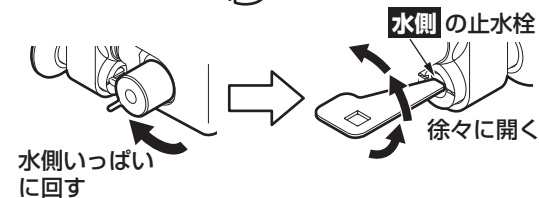
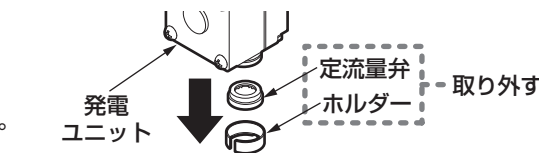
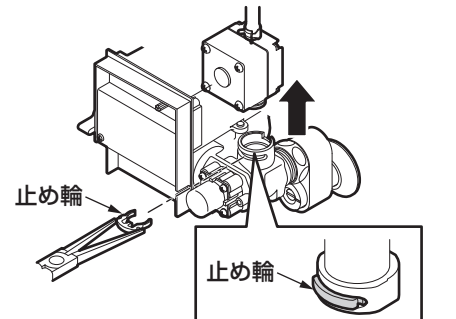
止め輪の付け忘れに注意 してください。

7. 温度調節ハンドルを水側いっぱいに戻す。

8. 水側の止水栓を徐々に開け、500mlのペットボトルが10秒以内で満水になるように流量を調節する。

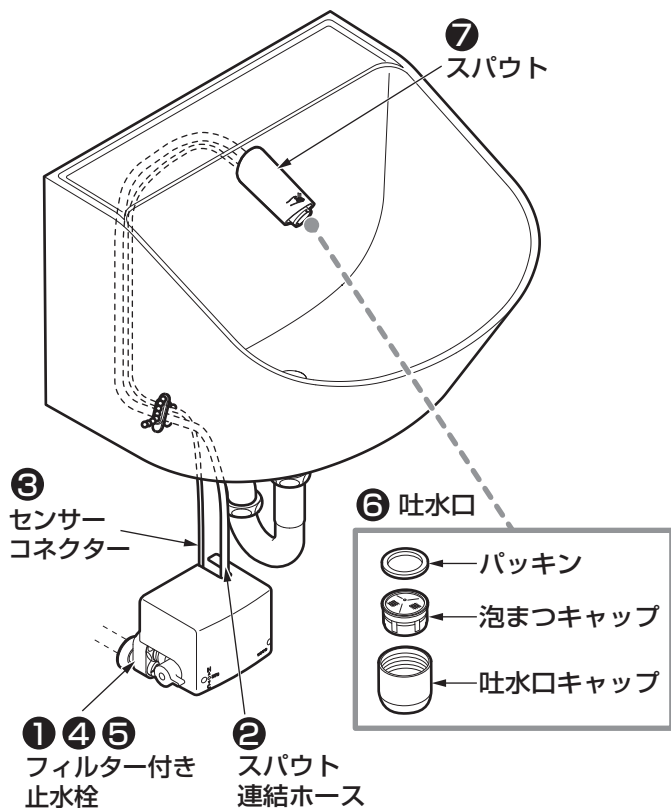
9. 温度調節ハンドルを湯側いっぱいに戻す。

10. 湯側の止水栓を全開し、吐水温度が42℃以下であることを確認する。



10 点検項目

取り付けが完了したあと、次の項目を確認してください。



水漏れの確認

水漏れがないか確認してください。

① 止水栓部の水漏れはないですか？

↳ ⑧-3 - ⑥「給水・給湯脚の取り付け」参照

② スパウト連結ホースはしっかり接続されていますか？

↳ ⑧-5 - ⑧「スパウト連結ホースの接続」参照

コネクターの確認

コネクターがしっかり差し込まれているか確認してください。

③ コネクターはしっかり差し込まれていますか？

↳ ⑧-5 - ⑨「コネクターの接続」参照

流量の確認

流量が少ないときは、次の項目を確認してください。

④ 止水栓は開いていますか？

↳ ⑨-2 ⑤. 流量の調節 参照

⑤ フィルターのごみ詰まりはないですか？

↳ ⑨-1 ②. フィルターの掃除 参照

⑥ 吐水口のごみ詰まりはないですか？

↳ 吐水口の掃除をする。

ガタツキの確認

ガタツキがないか確認してください。

⑦ スパウトのガタツキはないですか？

↳ ⑧-2 - ②「スパウトの取り付け」参照

※同梱の取扱説明書などは、必ずお客様にお渡しください。